

第5章 ロシア

—コロナ禍と食料安全保障—

長友 謙治

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、ロシアにおいても大きな影響を及ぼし、2020年のロシア経済はマイナス成長を余儀なくされた。一方、同年のロシアの農業部門は、天候不順の影響で生産が減少した地域・品目があったものの、結果的には、穀物の収穫量は2017年に次ぐ史上第2位となり、農業生産額は、価格上昇とあいまって前年より増加した。しかし、農産物貿易の面では、コロナ禍で国民生活が悪化する中で、ロシア政府は近年推進してきた農産物輸出促進から食料安全保障重視に方針を転換した。2020年4月～6月(2019/20農業年度の第4四半期)には穀物の輸出数量枠(クォータ)を導入し、さらに同年末に向けて穀物、食用油、砂糖といった基礎的食品の価格上昇が問題になると、急遽(きゅうきょ)対策として2021年1月からの油糧種子の輸出規制導入、2月からの穀物輸出規制導入を決定し、更にその強化を進めた。2020年度のレポートにおいては、ロシアの経済・農業の動向を踏まえつつ、これら農政上の重要な動きについて報告する。

なお、本稿における「年度」のうち「2020年度」のように単年の年度の形で記述するのは、我が国の会計年度であり、「2019/20農業年度」のように二つの暦年をまたぐ形で記述するのは、ロシアの農業年度(毎年7月～翌年6月)である。「農業年度」が連続する場合には「年度」と略すこともある。それら以外の年度を用いる場合には個別に説明する。

2. 2020年のロシア経済

(1) マクロ経済⁽¹⁾

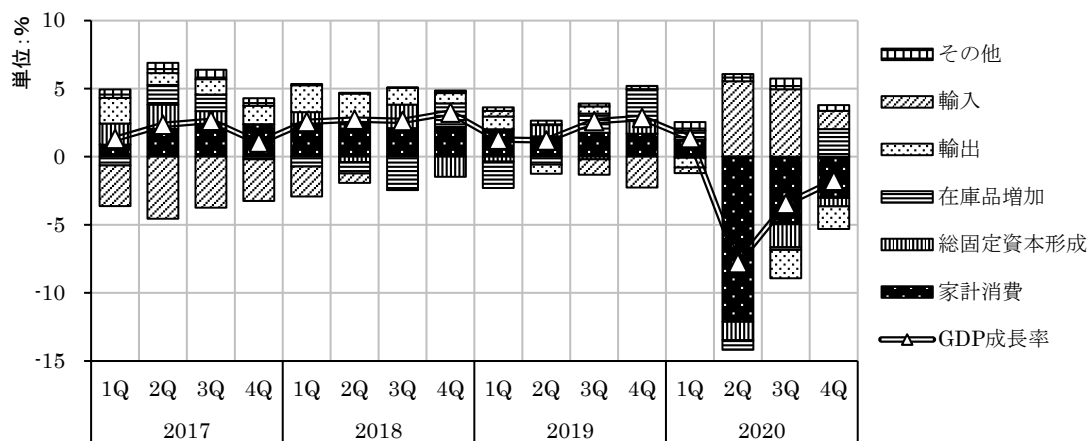
1) 新型コロナウイルス感染症の流行とマイナス成長

ロシアの実質GDP成長率は、2015年には原油価格の低迷やウクライナ危機に伴う経済制裁などの影響により-2.0%となった。その後2016年0.2%、2017年1.8%、2018年2.8%と徐々に成長率が上昇してきたが、2019年には、原油等の輸出額の減少や付加価値税率の引上げに伴う家計消費の伸びの鈍化等を背景として2.0%に低下した。さらに2020年の実質GDP成長率は-3.0%に落ち込んだ。主な理由としては、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う個人消費や投資の縮小、原油の価格低下と生産縮小が挙げられる。

ロシアの四半期別実質GDP成長率と、これに対する支出項目別の寄与度の推移を第1

図に示したので、2020年のロシアの経済成長率の変化の要因を確認してみよう。2020年のロシアの実質GDP成長率は、第1四半期(1~3月)には+1.4%だったが、第2四半期(4~6月)には-7.8%と大幅に落ち込んだ。その最大の要因は、家計消費の大幅な縮小であり、これに次ぐマイナス要因が投資(総固定資本形成)の減少だった。ロシアでは、新型コロナウイルス感染症対策として、プーチン大統領が3月28日~5月11日を非労働日とすることを決定し、これを受けて全国でロックダウンが実施されており、これが第2四半期に家計消費や投資活動が縮小した主な原因と考えられる。

その後ロックダウンは段階的に解除され、実質GDP成長率は、第3四半期(7~9月)-3.5%、第4四半期(10~12月)-1.8%とマイナス幅が縮小している。その中で家計消費や投資の減少幅が縮小しており、ロシア経済の回復が徐々に進んでいる。



第1図 ロシアの支出項目別GDP成長率寄与度

資料：ロシア連邦統計庁から金野(2020b)及び田畑(2020)を参照して筆者作成。

ロシアで新型コロナウイルス感染症の患者が最初に発見されたのは2020年1月31日だが、新規感染者数が本格的に増加し始めたのは3月後半以降であり、対策としてロックダウンが実施されたのはこの時期である。新規感染者数は、5月に最初のピークに達し(5月11日11,656人)、その後減少に転じたが、8月末頃から再び増加が進み、12月には毎日2万5千人を超える水準が続いた。2021年3月26日現在の累計感染者数は4,442,492人で、米国、ブラジル、インド、フランスに次ぐ世界第5位、累計死者数は95,010人で世界第7位であり、新規感染者数は、減少傾向にはあるものの、同年3月時点では依然として毎日9千人程度となっている(Johns Hopkins University)。

2) 原油価格の低下とルーブル安

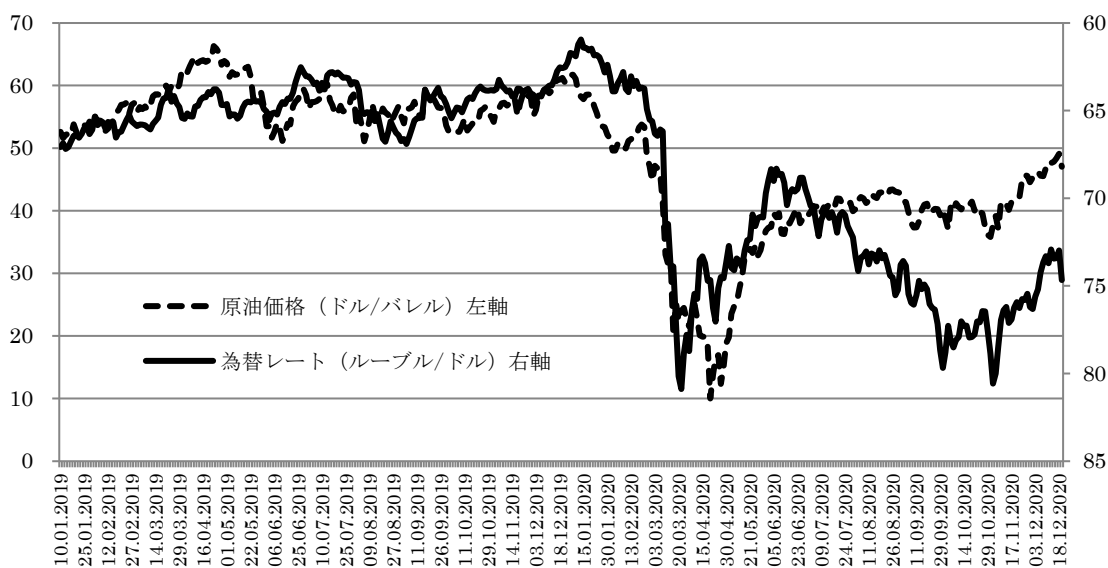
2020年のロシア経済に対し、新型コロナウイルス感染症の流行とともに大きな影響を及ぼした要因としては、原油の価格急落と協調減産の実施が挙げられる。第2図に、原油価格及びこれと密接に関係するルーブルの対米ドル相場の動向を、2019年1月から2020

年12月までの期間について示したので、事態の推移を確認しよう。

2019年から2020年の初めまでは、原油価格（1バレル当たり）は50～60ドル台でおおむね安定的に推移した。ルーブルの対ドル相場もおおむね安定しており、2019年1月の1ドル67ルーブルから同年12月の63ルーブルへと緩やかにルーブル高が進んだ。

しかし、2020年2月下旬以降、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な景気低迷と石油需要減少の見通しに加えて、OPECとロシア等との協調減産交渉の決裂を契機として原油価格が急落し（2020年2月51ドル→4月18ドル）、これに伴ってルーブルの対ドル相場も大幅に下落した（同年2月64ルーブル→4月75ルーブル）。

こうした事態に対応するため、2020年4月にはOPECとロシア等との協調減産合意が成立し、5月から実施に移されたことから、原油価格は5月以降上昇に転じ、12月には47ドルまで回復した。しかし、前年に比べて低い原油価格と協調減産による生産量の縮小から、ロシアの原油輸出額は前年より大幅に減少している。2020年第3四半期及び第4四半期には、輸出の減少が家計消費の減少に次ぐマイナス成長の要因となったが（第1図参照）、その主要因は原油等の鉱物性燃料の輸出額の減少だった。



第2図 原油価格とルーブル相場の推移 (2019年1月～2020年12月)

資料：USEIA (原油価格Cushing, OK Crude Oil Future Contract 1), ロシア連邦中央銀行 (為替レート) から筆者作成。

一方、ルーブルの対ドル相場は、2020年6月（69ルーブル）までは原油価格の上昇に連動して上昇したが、それ以降は原油価格とは乖離（かいり）する形で低下が進んだ（10月78ルーブル、その後若干上昇し12月74ルーブル）。6月以降における原油価格の回復と乖離したルーブル安の原因について、金野（2020b）はロシアをめぐる一連の地政学リスクの高まり等を指摘している。こうしたルーブル安は、農産物貿易においては、国際価格の上昇とともに穀物等の輸出加速の要因となった。

3) 国民生活への影響

新型コロナウイルス感染症の流行等に伴う経済の停滞により、所得が減少し失業率が上昇する一方で物価は上昇した。ロシア連邦政府は、穀物、食用油、砂糖の一部輸出制限を含む価格高騰対策を12月に決定しているため、その前の状況を統計値で具体的に見ると、実質可処分所得は2020年第3四半期(7~9月)には対前年同期95.2%(第2四半期には同91.6%)と減少し、失業率(8~10月平均値)は2019年の4.5%から2020年の6.3%に上昇している。一方、消費者物価指数(2020年11月の対前年同月比)は、総合で104.4%、食品が105.8%とロシア中央銀行のインフレ目標(4%)を上回っており、中でも砂糖165.2%、ヒマワリ油123.8%、穀物ひき割り・豆120.9%、パスタ110.8%、パン類106.8%といった国民生活上重要な基礎的食品において、価格上昇率が特に高くなっていた(数値はいずれもロシア連邦統計庁ウェブサイト)。

ロシア連邦政府が12月に穀物等の価格高騰対策を決定した背景には、こうした状況が内政に及ぼす影響に対するプーチン大統領の強い懸念があった(第4節(2)参照)。

4) プラス成長を維持した農業

2020年における農業の総付加価値額の成長率は0.5%だった⁽²⁾。農業は2012年に干ばつ等による不作のためマイナス成長となった後はプラス成長を続けており、ロシア経済全体がマイナス成長となった2015年及び2020年においてもプラス成長を維持した(第1表)。2020年の農業の総付加価値額のプラス成長の理由としては、穀物の収穫量が2017年に次ぐ史上第2位の豊作だったこと(第3節(1)の1)参照)、ルーブル安と国際価格の上昇に引きずられる形で穀物や油糧種子の価格が上昇したこと等が挙げられる。

第1表 ロシアの実質GDP成長率と農業の成長率

| | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|
| 実質GDP成長率(%) | ▲2.0 | 0.2 | 1.8 | 2.8 | 2.0 | ▲3.0 |
| 農業成長率(%) *注 | 1.9 | 2.0 | 1.7 | 1.0 | 3.4 | 0.5 |

資料：ロシア連邦統計庁

注。「農業成長率」は、耕種農業・畜産業・狩猟業・関連サービス業の総付加価値額の対前年増加率。

(2) 貿易

ロシアの貿易は、石油・天然ガスを中心とする鉱物資源の輸出によって多額の貿易黒字を獲得する構造であり、黒字額は主として原油輸出の動向によって変動する。2020年の貿易黒字額は前年から大幅に減少して1,050億ドル(対前年42%減)となった。これは、輸入の面では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行下にあつて、ロシア経済の停滞やルーブル安の影響による需要の縮小により輸入総額が若干減少して2,314億ドル(対前年5%減)となる一方で、輸出の面では、原油価格の下落とその後の協調減産の実施により原油等の輸出額が大きく減少したことを主な要因として、輸出総額が3,364億ドル(対前年21%減)と大幅に減少したためである(第2表)。

第2表 ロシアの貿易構造

(単位：億ドル)

| | | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 輸出額 | 総額 | 4,974 | 3,435 | 2,857 | 3,573 | 4,503 | 4,244 | 3,364 |
| | 農水産物 | 190 | 162 | 171 | 207 | 250 | 248 | 296 |
| 輸入額 | 総額 | 2,871 | 1,827 | 1,824 | 2,279 | 2,387 | 2,443 | 2,314 |
| | 農水産物 | 400 | 266 | 251 | 290 | 298 | 300 | 297 |
| 差額 | 総額 | 2,103 | 1,608 | 1,032 | 1,294 | 2,116 | 1,801 | 1,050 |
| | 農水産物 | ▲ 210 | ▲ 104 | ▲ 80 | ▲ 82 | ▲ 48 | ▲ 51 | ▲ 1 |

資料：2019年までは各年のロシア連邦税関庁「通関統計」、2020年は同庁ウェブサイトから筆者作成。

ロシアの農水産物貿易においては、穀物等の原料農産物を輸出する一方で、食肉や加工食品のような高付加価値品目を輸入することにより、収支は輸入超過を続けてきた。この基本的な構造はまだ続いているが、2014年以降ルーブル安や欧米諸国の経済制裁に対抗した食品輸入禁止措置⁽³⁾の発動によって農水産物の貿易赤字額が大きく減少してきた。

2020年においては、ルーブル安や穀物等の国際価格の上昇を背景として農水産物輸出額が296億ドルに増加(対前年19%増)する一方、コロナ禍による経済の停滞やルーブル安を背景として農水産物輸入額は297億ドルに減少(同1%減)したことから、農水産物の貿易赤字額は大幅に減少して過去最少の1億ドルとなった(農水産物貿易の詳細については第3節(2)参照)。

3. 2020年のロシアの農業生産・農産物貿易動向

(1) 2020年の農業生産動向

1) 耕種農業

ロシアの主な耕種作物の収穫量の推移は第3表に示すとおりである。以下主要作目について2020年の動向を見ていこう(収穫量の数値はロシア連邦統計庁ウェブサイト)。

2020年のロシアの穀物・豆類(以下単に「穀物」という)の総収穫量は1億3,346万トンで、2017年(1億3,554万トン)に次ぐ史上第2位の豊作となった⁽⁴⁾。ロシアの穀物総収穫量が1億トンを上回るのは2014年以来7年連続である。穀物総収穫量の5年平均値を見ても、2016-2020年平均値は1億2,483万トンで、ソ連末期の1986-1990年平均値(1億426万トン)を超えた。

小麦の2020年の収穫量は、史上最高だった2017年(8,600万トン)に迫る8,590万トンに達した。ロシアの小麦生産は、主にヨーロッパ・ロシア中・南部で生産される冬小麦と、主にシベリア、ウラル等の地域で生産される春小麦からなる。2020年は、冬小麦については、播種(はしゅ)面積が前年より増加する一方で⁽⁵⁾、南部の産地が暖冬・少雪による土壌水分の不足、春先の寒の戻りによる枯死等、天候不順による影響を受け、とりわけ大産地のスタヴロポリ地方(北カフカス連邦管区)やクラスノダール地方(南連邦管区)では大幅な減収となったが、中央連邦管区の南部や沿ヴォルガ連邦管区では5月～7月に

は降雨もあって豊作となったほか、春小麦はシベリア東部で異例の高単収による増収があったことなどから、連邦全体では高水準の小麦収穫量を達成した⁽⁶⁾。

第3表 主要耕種作物の収穫量

(単位：万トン)

| | 年平均値 | | | | | | | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 1986 -1990 | 1991 -1995 | 1996 -2000 | 2001 -2005 | 2006 -2010 | 2011 -2015 | 2016 -2020 | | | | | |
| 穀物・豆類 | 10,426 | 8,795 | 6,510 | 7,883 | 8,518 | 9,351 | 12,483 | 12,068 | 13,554 | 11,325 | 12,120 | 13,346 |
| 小麦 | 4,355 | 3,817 | 3,430 | 4,495 | 5,226 | 5,354 | 7,837 | 7,335 | 8,600 | 7,214 | 7,445 | 8,590 |
| ライ麦 | 1,245 | 876 | 538 | 488 | 347 | 277 | 216 | 255 | 255 | 192 | 143 | 238 |
| 大麦 | 2,202 | 2,377 | 1,421 | 1,777 | 1,660 | 1,683 | 1,940 | 1,797 | 2,063 | 1,699 | 2,049 | 2,094 |
| エン麦 | 1,258 | 1,050 | 655 | 561 | 494 | 483 | 470 | 477 | 546 | 472 | 442 | 413 |
| トウモロコシ | 330 | 184 | 141 | 215 | 420 | 1,023 | 1,361 | 1,528 | 1,321 | 1,142 | 1,428 | 1,388 |
| その他穀物 | 593 | 238 | 192 | 174 | 217 | 307 | 309 | 383 | 343 | 264 | 278 | 279 |
| 豆類 | 443 | 254 | 132 | 174 | 155 | 224 | 349 | 294 | 426 | 344 | 334 | 345 |
| 工芸作物 | | | | | | | | | | | | |
| テンサイ | 3,318 | 2,166 | 1,402 | 1,853 | 2,712 | 4,088 | 4,671 | 5,132 | 5,191 | 4,207 | 5,435 | 3,392 |
| 油糧作物 | — | 380 | 381 | 526 | 798 | 1,254 | 1,926 | 1,627 | 1,650 | 1,953 | 2,277 | 2,125 |
| うちヒマワリ | 312 | 310 | 333 | 451 | 631 | 884 | 1,259 | 1,102 | 1,048 | 1,276 | 1,538 | 1,331 |
| 大豆 | 65 | 47 | 31 | 48 | 87 | 199 | 389 | 314 | 362 | 403 | 436 | 431 |
| ナタネ | — | 14 | 13 | 20 | 65 | 110 | 183 | 100 | 151 | 199 | 206 | 257 |
| その他 | — | 9 | 5 | 7 | 14 | 61 | 96 | 111 | 88 | 76 | 97 | 105 |
| 馬鈴薯 | 3,588 | 3,681 | 3,183 | 2,836 | 2,576 | 2,525 | 2,165 | 2,246 | 2,171 | 2,239 | 2,207 | 1,961 |
| 野菜 | 1,117 | 1,023 | 1,051 | 1,123 | 1,168 | 1,289 | 1,369 | 1,318 | 1,361 | 1,369 | 1,410 | 1,386 |

資料：ロシア連邦統計庁ウェブサイト等から筆者作成。

注(1) 飼料作物(牧草等)については掲載を省略した。

注(2) 1986-1990年は、「大麦」は春大麦のみ、ライ麦は冬ライ麦のみの数値であり、冬大麦、春ライ麦は「その他穀物」に含まれている。1991年以降は、「大麦」、「ライ麦」とも冬作・春作両方を含む数値となっている。

注(3) 油糧種子の数値は、2010年までは乾燥調整前、2011年以降は乾燥調整後。

その他の主要穀物では、大麦の収穫量が2,094万トンで前年を上回り、90年代後半以降では最高となったが、トウモロコシは、播種面積は前年より大幅に増加したものの⁽⁷⁾、南部を中心とした夏期の高温・乾燥等の影響による単収の低下で収穫量が前年より減少し、1,388万トンとなった。

油糧作物の2020年の収穫量については、ヒマワリが1,331万トンで、対前年では13.4%減となったが、前年は史上最高の豊作であり、2020年の収穫量は2016-2020年の5年平均値を4.7%上回っていることから、極端な不作ではない。2020年の減収の原因としては、主要産地における夏期以降の乾燥等の天候不順が指摘されている。その他の主要な油糧作物の収穫量は、大豆が431万トンで、史上最高だった前年と比べて1.2%減(対2016-2020年平均値では+9.5%)、ナタネが257万トンで対前年24.9%増(対2016-2020年平均値では+36.2%)と良好だった⁽⁸⁾。

テンサイの2020年の収穫量は3,392万トンで、2014年以来の低水準となった。これは、近年の生産過剰による砂糖の価格低下に対応して、2020年にはテンサイの作付面積が前年から2割近く減少したことに加えて⁽⁹⁾、暖冬・少雪による土壌水分の不足、春の寒の戻りによる枯死や風害、夏期以降の高温・乾燥等の不純な天候の影響によって、主産地の

中央連邦管区や南連邦管区などで単収が低下したことによるものである。ロシアは近年の砂糖生産の増加で砂糖の純輸出国となっていたが、今年のテンサイ減収で大量の砂糖輸入が必要と見込まれる中、輸入先として期待されるウクライナ、ベラルーシ等の近隣諸国も原料不足は共通しており、砂糖の価格高騰を招いている⁽¹⁰⁾。

馬鈴薯（ばれいしょ）の収穫量は1,961万トンに減少した。ロシアの馬鈴薯収穫量は、深刻な干ばつに見舞われた2010年（1,850万トン）が1970年代半ば以降の最低だったが、2020年の収穫量はこれに次ぐ低水準である。野菜については、食品輸入禁止措置の適用が始まった2014年以降収穫量の増加が続いてきたが、2020年の収穫量は1,386万トンで前年を下回った。

2) 畜産業

ロシアの畜産物生産量の推移は第4表に示すとおりである。ロシアの畜産物生産は、1990年代の劇的な縮小を経て、2000年代後半以降本格的な回復過程に入ったが、そこで回復・拡大が進んだのは主に養鶏、養豚だった。2014年にルーブル安と食品輸入禁止措置が始まると、ロシアの食肉・肉製品や牛乳・乳製品の輸入は一層減少したが、その後も生産量が顕著に増加したのは豚肉と家禽（かきん）肉だった。2020年の生産量（生体重）は、家禽肉673万トン、豚肉548万トンであり、2014年からの増加量（率）は、家禽肉115万トン（20.5%）増、豚肉167万トン（43.7%）増だった。これに対し、鶏卵は2020年の生産量は448億個で14年比31億個（7.4%）増、牛乳は同3,222万トンで222万トン（7.4%）増と増加は相対的に小さく、牛肉（生体重）は同284万トンで2万トン（0.7%）減だった

第4表 ロシアの畜産物生産量

| | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2014 | 2015 | 2018 | 2019 | 2020 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 食肉計（万トン） | 1,564 | 934 | 703 | 773 | 1,055 | 1,284 | 1,340 | 1,488 | 1,516 | 1,564 |
| 牛肉 | 733 | 478 | 333 | 320 | 303 | 285 | 282 | 280 | 283 | 284 |
| 豚肉 | 468 | 257 | 215 | 209 | 310 | 381 | 395 | 480 | 503 | 548 |
| 羊・山羊肉 | 88 | 59 | 31 | 34 | 41 | 46 | 45 | 48 | 47 | 46 |
| 家禽肉 | 255 | 126 | 112 | 197 | 388 | 559 | 604 | 667 | 671 | 673 |
| 牛乳（万トン） | 5,572 | 3,924 | 3,226 | 3,107 | 3,151 | 3,000 | 2,989 | 3,061 | 3,136 | 3,222 |
| 鶏卵（億個） | 475 | 338 | 341 | 371 | 408 | 417 | 425 | 449 | 449 | 448 |

資料：1990-2018年はEMISS、2019年及び2020年はロシア連邦統計庁（2021）から筆者作成。

注. 食肉の生産量は生体重。「食肉計」には表中に列記した主要家畜以外の肉も含む。

牛部門（酪農・牛肉生産）は90年代の縮小後長らく停滞が続いてきたが、最近、緩やかではあるが生産の回復が明らかになってきた。牛乳の生産量は、2016年の2,979万トンを底として回復に転じ、その後は2020年の3,222万トンまで毎年増加を続けている。牛肉の生産量も、2017年の274万トンを底として増加を続け、2020年には284万トンとなっている。近年報じられてきたアグロホールディングによる牛部門への投資の拡大が具体的

な成果につながってきたものとみられる（第4表に関し、本文中の生産量の増減の数値は四捨五入の関係で同表から計算する値とは若干異なる。次の第5表についても同様）。

第5表は各年末現在の家畜・家禽頭羽数の推移である。2020年末の値は、牛1,806万頭（うち雌牛789万頭）、豚2,586万頭、羊・山羊2,194万頭、家禽51,873万羽だった。このうち、前年比で頭数が増加したのは豚のみである。豚の頭数は2004年以降おおむね増加が続いており、食品輸入禁止措置が始まった2014年と比べると、2020年の頭数は640万頭（32.9%）増となった。一方、家禽の羽数は、2017年をピークとして頭打ちとなっており、2019年には若干増加したものの、2020年には再び減少した。その間、家禽肉と鶏卵の生産量は微増ないし横ばいで推移しており、羽数の減少を一羽当たり生産量の増加で補ってきたと考えられるが、2020年の家禽羽数の減少は、対前年4.8%減と比較的大きく、その原因として2020年秋以降の鳥インフルエンザの流行が指摘されているところ（ショクロヴァ、2021）、今後の家禽肉や鶏卵の生産への影響を注視していく必要がある。

牛の頭数は、ソ連解体後続いてきた減少がいまだ明確に増加に転じていないが、その一方で牛乳の生産量が2016年、牛肉の生産量が2017年を底として増加を始めているのは、牛の頭数については、農業組織（アグロホールディング傘下のものを含む）や農民経営における増加が、まだ住民経営における減少を下回っているため、総頭数では減少が続いているが、農業組織等の方が住民経営と比べて生産効率（一頭当たりの産乳量や産肉量）が高いため、牛乳や牛肉の総生産量が牛の総頭数に先んじて増加に転じているのである。こうした変化の進行を引き続き注視していく必要がある。

第5表 ロシアの家畜・家禽頭羽数

（各年末現在、単位：万頭羽）

| | 1990 | 1995 | 2000 | 2005 | 2010 | 2014 | 2015 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 牛 | 5,704 | 3,970 | 2,752 | 2,163 | 1,979 | 1,892 | 1,862 | 1,815 | 1,813 | 1,806 |
| うち雌牛 | 2,056 | 1,744 | 1,274 | 952 | 871 | 826 | 812 | 794 | 796 | 789 |
| 豚 | 3,831 | 2,263 | 1,582 | 1,381 | 1,725 | 1,945 | 2,141 | 2,373 | 2,516 | 2,586 |
| 羊・山羊 | 5,819 | 2,803 | 1,496 | 1,858 | 2,173 | 2,445 | 2,461 | 2,313 | 2,262 | 2,194 |
| 家禽 | 65,981 | 42,260 | 34,067 | 35,747 | 44,971 | 52,425 | 54,391 | 54,145 | 54,469 | 51,873 |

資料：1990-2019年はロシア連邦統計庁ウェブサイト、2020年はロシア連邦統計庁（2021）から筆者作成。

（2）農水産物貿易動向

農水産物（HS1類～24類）の品目別貿易動向について考察した上で、最大の輸出品目である穀物の輸出動向を確認する。

1）農水産物の品目別貿易動向

ロシアは、農水産物（HS1類～24類）全体で見ると純輸入国だが、ロシアが食品輸入禁止措置を発動した2014年以降、おおむね農水産物の輸入額は減少傾向、輸出額は増加傾向で推移しており、2020年には総輸出額296億ドルに対して総輸入額297億ドルで、純輸入額は1億ドルと過去最少に縮小した。これには、国内生産の拡大（穀物の豊作）、ル

ルーブル安、穀物等の国際価格の上昇、コロナ禍による国内需要の縮小、ロシア政府の政策（油糧種子等における輸出規制、食肉等における輸出促進）等が複合的に寄与したと考えられる。

第6表で2020年のロシアの農水産物貿易に生じた変化を前年との比較で確認してみよう。2020年に起きたのは農水産物の純輸入額（第6表では負の純輸出額）の大幅な減少であり、これをもたらしたのは、①純輸出品目における純輸出額の増加と、②純輸入品目における純輸入額の減少であるが、それぞれ具体的な状況は以下のとおりだった。

第6表 ロシアの農水産物（HS1～24）貿易動向：2019-20年

(単位：百万ドル)

| HS | 品目 | 輸出 | | | 輸入 | | | 純輸出額 | | |
|----|-----------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|---------|---------|-------|
| | | 2019 | 2020 | 変化 | 2019 | 2020 | 変化 | 2019 | 2020 | 変化 |
| 1 | 生きた動物 | 52 | 57 | ▲ 5 | 301 | 215 | ▲ 87 | ▲ 249 | ▲ 158 | 92 |
| 2 | 肉 | 593 | 882 | 289 | 1,889 | 1,437 | ▲ 452 | ▲ 1,295 | ▲ 554 | 741 |
| 3 | 魚等 | 4,665 | 4,637 | ▲ 28 | 1,807 | 1,682 | ▲ 125 | 2,858 | 2,955 | 97 |
| 4 | 酪農品等 | 280 | 304 | 23 | 3,019 | 2,898 | ▲ 120 | ▲ 2,739 | ▲ 2,595 | 144 |
| 5 | その他動物産品 | 116 | 97 | ▲ 19 | 74 | 81 | 8 | 42 | 15 | ▲ 27 |
| 6 | 生きた植物 | 6 | 4 | ▲ 2 | 564 | 524 | ▲ 40 | ▲ 558 | ▲ 520 | 38 |
| 7 | 野菜 | 471 | 489 | 18 | 1,840 | 1,729 | ▲ 111 | ▲ 1,369 | ▲ 1,240 | 129 |
| 8 | 果実 | 124 | 137 | 13 | 5,113 | 5,638 | 525 | ▲ 4,989 | ▲ 5,500 | ▲ 511 |
| 9 | コーヒー、茶等 | 172 | 192 | 20 | 1,159 | 1,184 | 25 | ▲ 987 | ▲ 992 | ▲ 5 |
| 10 | 穀物 | 7,932 | 10,126 | 2,194 | 281 | 328 | 46 | 7,650 | 9,798 | 2,148 |
| 11 | 穀粉等 | 330 | 359 | 29 | 121 | 113 | ▲ 8 | 209 | 246 | 37 |
| 12 | 油糧種子等 | 1,018 | 1,735 | 717 | 1,724 | 1,869 | 145 | ▲ 706 | ▲ 134 | 572 |
| 13 | ゴム等 | 11 | 10 | ▲ 1 | 232 | 217 | ▲ 16 | ▲ 221 | ▲ 206 | 14 |
| 14 | その他植物産品 | 19 | 18 | ▲ 1 | 7 | 11 | 4 | 12 | 7 | ▲ 5 |
| 15 | 動植物性油脂 | 3,441 | 4,271 | 830 | 1,275 | 1,402 | 127 | 2,166 | 2,869 | 702 |
| 16 | 肉等調製品 | 197 | 232 | 35 | 527 | 536 | 9 | ▲ 330 | ▲ 304 | 25 |
| 17 | 糖類 | 520 | 737 | 217 | 363 | 315 | ▲ 48 | 157 | 422 | 265 |
| 18 | ココア | 730 | 743 | 13 | 1,250 | 1,222 | ▲ 28 | ▲ 520 | ▲ 479 | 41 |
| 19 | 穀物調製品 | 692 | 756 | 64 | 881 | 852 | ▲ 29 | ▲ 190 | ▲ 96 | 94 |
| 20 | 野菜等調製品 | 344 | 414 | 70 | 1,237 | 1,174 | ▲ 63 | ▲ 892 | ▲ 760 | 132 |
| 21 | 各種調製食品 | 703 | 821 | 118 | 1,445 | 1,501 | 56 | ▲ 742 | ▲ 681 | 62 |
| 22 | 飲料、アルコール等 | 619 | 627 | 8 | 3,036 | 2,832 | ▲ 204 | ▲ 2,417 | ▲ 2,205 | 213 |
| 23 | 食品産業残留物等 | 1,261 | 1,430 | 168 | 953 | 1,116 | 163 | 309 | 314 | 5 |
| 24 | たばこ | 544 | 540 | ▲ 4 | 875 | 842 | ▲ 33 | ▲ 331 | ▲ 302 | 30 |
| 計 | 計 | 24,841 | 29,616 | 4,775 | 29,973 | 29,717 | ▲ 256 | ▲ 5,132 | ▲ 101 | 5,031 |

資料：ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」から筆者作成。

①に該当し、2020年に純輸出額が大きく増加した品目は、HS10類の穀物、HS15類の動植物性油脂、HS12類の糖類である。HS3類の魚等は、純輸出額は29.6億ドルで穀物に次いで大きいですが、2020年の純輸出額の増加は小さかった。

HS10類の穀物は、農水産物中で最大の輸出超過品目であり、2020年の穀物の純輸出額98.0億ドルは、その増加額（対前年21.5億ドル増）とともに24品目中最大だった。これは、史上第2位の収穫量に加えて、ルーブル安や国際価格の上昇によるものと考えられる。

HS15類の動植物性油脂は、主にヒマワリ油等の植物油であり、2020年の純輸出額28.7億ドルはHS10類、HS3類に次いで大きかった。HS15類の2020年の輸出額増加（対前

年 7.0 億ドル増) については、ルーブル安のほか、2020 年 4 月から 8 月までユーラシア経済連合⁽¹⁾が実施した油糧種子の輸出規制（第 4 節（1）参照）に伴い、輸入国が輸入品目を原料の油糧種子から製品の植物油に転換したことが影響したと考えられる。HS17 類の糖類は、2020 年の純輸出額が 4.2 億ドル（対前年 2.7 億ドル増）であり、近年生産過剰で価格が低下していたテンサイ糖の輸出が、ルーブル安とあいまって進展したものとみられる。

②に該当し、2020 年に純輸入額（第 6 表では負の純輸出額）が大きく減少した品目は、HS2 類の肉、HS12 類の油糧種子等、HS22 類の飲料、アルコール等だった。

HS2 類の肉については、2020 年の純輸入額は 5.5 億ドルで、対前年 7.4 億ドルの減少だった。これは輸出額の増加（3.0 億ドル増）と輸入額の減少（4.5 億ドル減）によるものであり、前者は家禽肉や豚肉の輸出拡大、後者はコロナ禍とルーブル安による輸入需要減少が原因と考えられる。後者の事情は、HS22 類の飲料、アルコール等についても共通とみられ、2020 年の純輸入額は対前年 2.1 億ドル減の 22 億ドルとなっている。

HS12 類の油糧種子等については、2020 年の純輸入額は 1.3 億ドル（対前年 5.7 億ドル減）だった。これは輸入額の増加（1.5 億ドル増）を上回る輸出額の増加（7.2 億ドル増）によるものであり、ルーブル安等を背景とした輸出拡大は輸出規制の原因ともなった。

2) 穀物の輸出動向

ロシアの穀物全体及び主要穀物別の輸出動向は第 7 表に示すとおりである。ロシアの穀物輸出は、2012/13 年度に干ばつ等による不作のため低水準となったが、2013/14 年度以降は好調が続く穀物生産を反映して穀物輸出も好調を維持している。特に 2017/18 年度の穀物収穫量と輸出量はいずれも史上最高となり、輸出量は 5,319 万トンに達した。

第 7 表 ロシアの穀物輸出（穀物計及び主要穀物別内訳）

| | 2015/16 年度 | | 2016/17 年度 | | 2017/18 年度 | |
|--------|------------|---------|------------|-------|-------------------------------|-------|
| | 数量 (万トン) | 構成比 (%) | 数量 | 構成比 | 数量 | 構成比 |
| 穀物計 | 3,074 | 100.0 | 3,440 | 100.0 | 5,319 | 100.0 |
| うち小麦 | 2,186 | 71.1 | 2,502 | 72.7 | 4,096 | 77.0 |
| 大麦 | 535 | 17.4 | 424 | 12.3 | 589 | 11.1 |
| トウモロコシ | 296 | 9.6 | 474 | 13.8 | 590 | 11.1 |
| | 2018/19 年度 | | 2019/20 年度 | | 2020/21 年度 (2020 年 12 月まで) | |
| | 数量 | 構成比 | 数量 | 構成比 | 数量 | 構成比 |
| 穀物計 | 4,349 | 100.0 | 4,288 | 100.0 | 3,126 | 100.0 |
| うち小麦 | 3,534 | 81.3 | 3,399 | 79.3 | 2,582 | 82.6 |
| 大麦 | 469 | 10.8 | 453 | 10.6 | 385 | 12.3 |
| トウモロコシ | 276 | 6.3 | 405 | 9.4 | 136 | 4.3 |

資料:ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」より筆者作成。データは 2021 年 2 月 15 日アクセス。

注. 期間は農業年度(各年 7 月～翌年 6 月)。2020/21 年度の数値は 2020 年 12 月末までの値。

2019/20 年度の穀物総輸出量は 4,288 万トンで、第 4 四半期における穀物輸出クオータ適用の影響もあってか、前年度より若干減少する結果となった。内訳を見ると、小麦と大

麦では、2019年の生産量が前年を上回ったにもかかわらず、輸出量はそれぞれ3,399万トン、453万トンで前年度を若干下回った。一方、前年の不作から生産量が回復したトウモロコシの輸出量は405万トンで、前年度を上回っている。

2020/21年度の穀物輸出については、2020年7月から12月までの年度前半の輸出量（対前年度同期変化率）は、穀物全体では3,126万トン（23%増）、うち小麦2,582万トン（21%増）、大麦385万トン（62%増）、トウモロコシ136万トン（15%減）となっており、2020年の収穫量が前年より減少したトウモロコシで輸出量が前年同期を下回っているほかは、前年度を大きく上回る速いペースで輸出が進んでおり、ルーブル安と国際価格上昇の影響によるものと考えられる。

世界の小麦貿易に占めるロシアの地位を第8表に示した。米国農務省（USDA）によれば、ロシアは2017/18年度及び2018/19年度に小麦輸出量世界第1位となった。2019/20年度にはEUに次ぐ第2位となったものの、2020/21年度には、第8表の作成時点では予測であるが、ロシアが輸出量3,900万トンで再び世界第1位の小麦輸出国になると見込んでいる。ただし、後述のとおり、ロシアは2021年2月から小麦、ライ麦、大麦及びトウモロコシを対象として、穀物輸出規制を適用することとしており、これがロシアの小麦輸出に及ぼす影響が注目される。

第8表 世界の主要小麦輸出国

(単位：万トン)

| | 2016/17 | | 2017/18 | | 2018/19 | | 2019/20 | | 2020/2021 (未確定) | |
|----|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|--------------------|--------|
| | 世界計 | 18,364 | 世界計 | 18,278 | 世界計 | 17,367 | 世界計 | 19,152 | 世界計 | 19,769 |
| 1位 | 米国 | 2,860 | ロシア | 4,145 | ロシア | 3,586 | EU | 3,843 | ロシア | 3,900 |
| 2位 | ロシア | 2,782 | 米国 | 2,466 | 米国 | 2,550 | ロシア | 3,449 | カナダ | 2,700 |
| 3位 | EU | 2,744 | EU | 2,338 | カナダ | 2,438 | 米国 | 2,628 | EU | 2,700 |
| 4位 | 豪州 | 2,264 | カナダ | 2,200 | EU | 2,331 | カナダ | 2,463 | 米国 | 2,681 |
| 5位 | カナダ | 2,022 | ウクライナ | 1,778 | ウクライナ | 1,602 | ウクライナ | 2,101 | 豪州 | 2,200 |

資料：USDA, PSD Online から筆者作成。データは2021年3月24日アクセス。

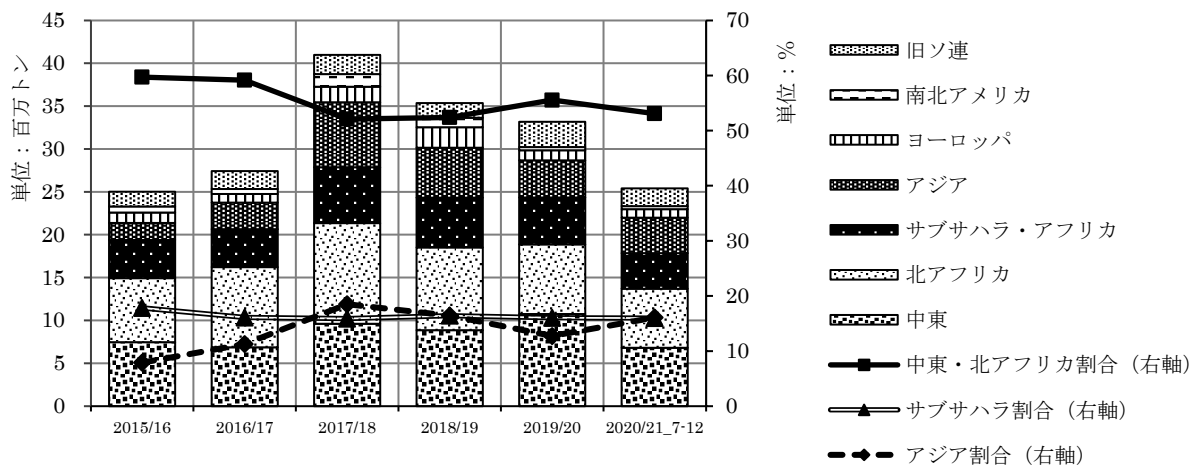
注(1) 期間は市場年度（各年7月～翌年6月）。

注(2) ロシアの小麦輸出量の数値は、ロシア連邦税関庁による第7表の値とは若干相違している。

ロシアの小麦輸出の地域別動向は第3図のとおりである。ロシア産小麦の最大の輸出先は中東・北アフリカ地域である。ロシアの小麦総輸出量に占める同地域のシェアは、輸出量の増加とともに低下してきており、2010/11年度以降は一貫して低下が続いてきたが、2018/19年度から再び上昇し、2019/20年度のシェアは55.5%となった。2020/21年度は、2020年7月～12月までの期間で53.1%となっている。この地域の中でも、ロシアから特に大量の小麦を輸入しているのはトルコとエジプトであり、2019/20年度のロシアから両国への輸出量はそれぞれ795万トン、638万トンに達した。

サブサハラ・アフリカ地域のシェアは、2019/20年度には16.1%で、前年度から大きな変化はなかった。2020/21年度のシェアは2020年7月～12月で16.0%となっている。この地域では、ロシアからの小麦輸出量が1百万トンを超えるのはナイジェリアのみで、輸

出先が 30 か国以上に分散していることもあって、ロシアの小麦輸出に占めるシェアは安定的に推移している。



第3図 ロシアの地域別小麦輸出量の推移

資料：ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」より筆者作成。

アジア地域のシェアは、2017/18年度の18.5%までは早いペースで上昇し、同年にはサブサハラ・アフリカ地域を上回ったが、その後低下し、2019/20年度には12.7%で再び同地域を下回った。2020/21年度のシェアは2020年7月～12月で16.1%となっている。アジア地域では、ロシアの小麦輸出先国は15か国程度で、その中でも、それぞれロシアから1～2百万トン程度小麦を輸入するバングラデシュ、ベトナム、インドネシアの3か国に輸出が集中しているため、輸出量とそのシェアが変動しがちである。

4. ロシアの農業政策・2020年の動き

2020年のロシアの農業政策においては、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い経済が低迷し、国民生活も大きな影響を受ける中で、特に農産物貿易政策における食料安全保障重視への回帰が顕著であった。近年ロシアでは農業生産と農産物輸出の拡大が進み、農産物輸出の振興が農政の重要課題となる中で、食料安全保障論は影を潜めていたが、ロシアの農業政策の基層には「食料安全保障の確保」が伏在しており、国内の政治・経済状況によっては今後もそれが前面に出てくる場合がある、ということが改めて明らかになった。本節では、穀物等の輸出規制措置の発動を中心として、2020年のロシアの農業政策の主な動きを整理した。

(1) 穀物等の輸出規制の導入 (2020年4月～6月)

2020年4月～6月(2019/20農業年度第4四半期)には、新型コロナウイルス感染症流

行に係る経済安定対策の一環として、穀物等の輸出を制限する措置が実施された。

まず、ロシア連邦政府においては、小麦及びメスリン（メスリンは小麦とライ麦の混合物）、ライ麦、大麦並びにトウモロコシの4品目の穀物について、ユーラシア経済連合（加盟国：アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスタン、ロシア）域外への4月1日から6月30日までの総輸出量を7百万トンとする輸出数量枠（クォータ）を適用した。

また、ユーラシア経済連合においては、4月12日から6月30日の間、野菜（タマネギ、ニンニク、カブ）、穀物（ライ麦、米、ソバ、キビ）、油糧種子（大豆、ヒマワリ）、穀物の加工品（ひき割り等）について、域外への輸出を禁止する措置を講じた⁽¹²⁾。

ロシアの穀物輸出数量枠については、総量700万トンという数量自体は、過去の同期間の輸出実績と比較して特に少ない数量ではなかったが⁽¹³⁾、数量枠の消化は先着順となっていたため、輸出申告が前倒しで殺到し4月26日までに枠を超過してしまった。その結果、輸出契約を締結し現物も手配していた輸出業者が輸出できなくなる一方で、仮申告的な形で枠を押さえていた業者が結局輸出をやめて枠を返上する、といった混乱が発生した（リトヴィノヴァ、2020）。ロシアの通関統計によれば、4～6月の輸出数量枠対象穀物のユーラシア経済連合域外への輸出実績は769万トンだったが⁽¹⁴⁾、月別には4月649万トン、5月83万トン、6月37万トンで、輸出が4月に極端に集中しており、安定的な輸出という観点からは問題のある結果となった。

また、ユーラシア経済連合の輸出禁止措置に関しては、大豆について当該措置を当初の期限の6月30日より前に解除する一方で⁽¹⁵⁾、ヒマワリ種子については、当初の措置の完了後も7月1日から8月31日（ロシアの油糧作物年度（9月～翌年8月）の最終日）まで域外輸出に許可制を適用している⁽¹⁶⁾。

（2）穀物等の輸出規制の再導入（2021年1月～）

2020/21 農業年度のロシアの穀物輸出については、年度開始前の報道では、連邦農業省が穀物輸出業界に対し、①2020/21 年度前半（2020年7月～12月）には新たな輸出クォータを適用しない、②同年度後半（2021年1月～6月）については、穀物収穫量が125百万トン、輸出余力が45百万トンを超える場合には輸出クォータは適用しない、との方針を示した旨が伝えられていた（ブルラコヴァ、2020）。確かに、2020/21 年度前半のうちにはロシアの穀物等の輸出に制限が加えられることはなかったが、穀物等の主要農産物の価格上昇が進行した結果、12月には政府が対応を迫られる事態に至る。

穀物については、ルーブル安と国際価格の上昇により、小麦輸出が早いペースで進む一方、小麦の国内価格が高騰し⁽¹⁷⁾、小麦製品の価格が上昇した（上記2.（1）の3）参照）。さらに、夏以降乾燥した気象が続いたため、秋に作付けされた2021年産冬小麦等の不作懸念が価格上昇に拍車をかけた。油糧種子については、ヒマワリの収穫が前年より減少する一方で、ヒマワリ種子はルーブル安で輸出が進み、国内価格が上昇したため、ヒマワリ油の価格上昇の要因となる一方、原料確保に懸念を深めた植物油製造業界が政府にヒマワリ種子の輸出規制を求めるようになった。また、砂糖については、2020年には、原料のテ

ンサイが、近年の生産過剰と価格低下で作付面積が減少していたところに、乾燥等に伴う単収低下が二重の打撃となって減収が大きく、その影響で砂糖価格が上昇した。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い経済が減速し、失業率が上昇し、所得は減少する中で、穀物、食用油、砂糖といった国民生活上不可欠な基礎的食品の価格が高騰することは、政治的な機微に触れる問題であり、12月に入って、事態をこれ以上看過できないとみたプーチン大統領は、政府に迅速かつ強力な対応を求めた⁽¹⁸⁾。ロシア政府は、大統領の指示を受けて直ちに社会的重要品目（砂糖、ヒマワリ油、パン製品等）の消費者価格抑制のため一連の措置を採ることを決定した⁽¹⁹⁾。本稿においては、以下その中で対外的な影響が懸念される輸出規制措置について説明する。

1) 油糧種子の輸出規制

最初に決定された輸出規制措置は、油糧種子のヒマワリ及びナタネの輸出関税の引上げだった。ロシアは、油糧種子のユーラシア経済連合域内での加工促進と搾油原料確保の目的で、これまでも油糧種子のヒマワリとナタネの経済連合域外輸出に輸出税を課していたが、2020年12月10日付けで、2021年1月9日～6月30日までの間、輸出税をそれまでの6.5%（ただし、ヒマワリは最低9.75ユーロ/トン、ナタネは最低11.4ユーロ/トン）から30%（ただし、いずれも最低165ユーロ/トン）に引き上げることが決定された⁽²⁰⁾。

また油糧種子関係では、ヒマワリ及びナタネに加えて大豆についても、12月31日付けで、それまで輸出関税は無税だったところ、2021年2月1日～6月30日までの間30%（ただし最低165ユーロ/トン）の輸出関税を課することが決定された⁽²¹⁾。これでロシアの主要な油糧作物は全て輸出関税の対象となった。最低165ユーロ/トンという関税額は、例えば2020年のロシアの大豆輸出価格が平均346ドル/トン⁽²²⁾であることを考えると、実質的には輸出禁止措置に近い高水準と考えられる。

2) 穀物の輸出規制

穀物の輸出規制については、ロシア政府は、2020年12月に措置を決定し（第1の措置）、その後2021年2月にかけて矢継ぎ早に措置の見直しを繰り返した（第2及び第3の措置）。その経緯と措置の内容は以下のとおりである⁽²³⁾。

(i) 第1の措置

穀物については、2020年12月14日付けで、小麦・メスリン（以下単に「小麦」という）、トウモロコシ、大麦及びライ麦の4種の穀物を対象として、2021年2月15日～6月30日までの間、輸出関税割当制度を適用することを決定した。具体的には、対象穀物のユーラシア経済連合域外への輸出に合計1,750万トンの輸出数量枠を設定し、その枠内の輸出については、小麦には25ユーロ/トンの輸出関税を課す一方、それ以外の3種の穀物は無税とし、枠外輸出については対象穀物全てに50%（ただし最低100ユーロ/トン）の輸出関税を課すというものである⁽²⁴⁾。

(ii) 第2の措置

ロシア政府は、第1の輸出関税割当制度について、施行前の2021年1月23日付けで見直しを行った⁽²⁵⁾。内容は、小麦については、枠内輸出関税を2月15日から同28日までは当初どおりの25ユーロ/トン、3月1日から6月30日までは50ユーロ/トンとすること、トウモロコシ及び大麦については、枠内輸出関税を2月15日から3月14日までは当初どおりの無税、3月15日から6月30日まではトウモロコシ25ユーロ/トン、大麦10ユーロ/トンとすることである。枠外輸出関税には変更がなく、対象穀物全て50%（最低100ユーロ/トン）である。輸出枠（1,750万トン）は、2020年2月～6月の上記4穀物の輸出実績1,441万トン⁽²⁶⁾を上回っているものの、改訂後の輸出関税は3月以降特に高水準となることから、対象品目の輸出への影響が懸念されるところである。

(iii) 第3の措置

ロシア政府による穀物輸出規制の見直しはこれにとどまらず、2021年2月6日付けで新たな措置が決定された⁽²⁷⁾。この措置は、穀物輸出関税とこれを財源として耕種農業生産者に給付される補助金がセットになった恒久的な措置であり、穀物の国際価格の高騰が国内市場に影響を及ぼすことを防ぐと同時に穀物生産の振興を図ることを意図しており、衝撃吸収装置（ダンパー）ということで「穀物ダンパー」（зерновой демпфер）と称される。

穀物ダンパーにおける輸出関税は、穀物の輸出価格の変動に応じて関税額が変動する「可変輸出関税」（плавающая экспортная пошлина）と輸出数量枠を組み合わせた仕組みとなっており、その概要は以下のとおりである。

- ① 対象品目：小麦、ライ麦、大麦及びトウモロコシの4品目⁽²⁸⁾。
- ② 適用期間：2021年6月2日から（恒久的な適用を想定）。
- ③ 関税額（率）及び輸出数量枠：ロシアの農業年度（毎年7月～翌年6月）を前提として以下の枠組みを設定。
 - a. 年度前半（7月1日～12月31日）：輸出数量枠の設定は想定されていない。可変輸出関税（税額は下記④参照）を適用する。
 - b. 年度後半（1月1日～6月30日）：輸出数量枠を設定する場合は、枠内輸出には可変輸出関税、枠外輸出には「50%、ただし最低100ユーロ/トン」の輸出関税が適用される。輸出数量枠を設定しない場合は可変輸出関税が適用される。

④ 可変輸出関税の税額

可変輸出関税のトン当たりの輸出関税額は、連邦農業省が下記の式により毎週算出・公表する。小麦、大麦及びトウモロコシが対象とされ、本式で算出した値が負になる場合には輸出関税額はゼロとされる。

$$\text{「輸出関税額〔トン当たり〕} = (\text{指標輸出価格} - \text{基準輸出価格}) \times 0.7\text{」}$$

- a. 指標輸出価格：モスクワ証券取引所・全国商品取引所におけるドル建てノヴォロシスク港渡しFOB価格相場に基づき、連邦農業省が毎週算出・公表する値⁽²⁹⁾。

b. 基準輸出価格：小麦は 200 ドル/トン，大麦・トウモロコシは 185 ドル/トン。

(iv) 2021 年の穀物輸出規制：整理と考察

以上のように，ロシアの穀物輸出規制については，2020 年 12 月以降，第 1 の措置から第 3 の措置まで制度の導入と見直しが立て続けに行われた結果，2021 年における制度の適用状況が複雑化し，非常にわかりにくくなっている。そこで小麦を例として 2021 年中の制度とその適用関係を整理し，第 4 図に示した。制度が変わる 6 月以降を説明すると，6 月 2 日～30 日は，輸出関税割当制度の 1,750 万トンの輸出数量枠が生きており，その枠内の輸出には可変輸出関税，枠外の輸出には 50%（最低 100 ユーロ/トン）の枠外輸出関税が適用される。7 月 1 日からは輸出数量枠がなくなり，12 月 31 日まで可変輸出関税制度のみが適用されることになる⁽³⁰⁾。

第 4 図 ロシアの 2021 年の穀物輸出規制概要（小麦の場合）

| 時期 | | 2021.2.15～2.28 | 3.1～6.1 | 6.2～6.30 | 7.1～12.31 |
|-----------|-----|--------------------|-----------|------------------------|-----------|
| 制度 | | 輸出関税割当制度 | | | 可変輸出関税制度 |
| 税率 (額) | 数量枠 | 1,750 万トン（対象穀物計） | | | |
| | 枠内 | 25 ユーロ/トン | 50 ユーロ/トン | （指標輸出価格－200 ドル/トン）×70% | |
| | 枠外 | 50%（最低 100 ユーロ/トン） | | | |

資料：各規制の根拠となるロシア連邦政令から筆者作成。

可変輸出関税制度による課税額の水準を推測するため，上記の「指標輸出価格」に代わるものとしてロシアの通関統計から算出した小麦の平均輸出価格を示すと，2019/20 年度においては，年度全体の平均が 200 ドル/トンであり，2019 年 12 月から 2020 年 6 月までは連続して 200 ドル/トンを超えているが，最高でも 2020 年 2 月及び 3 月の 218 ドル/トンなので，輸出関税額は最大 12 ドル/トン程度となる。一方，2020/21 年度（7 月～12 月まで）の小麦の平均輸出価格は 212 ドル/トンで，2020 年 10 月以降 200 ドル/トンを超えている。12 月には 240 ドル/トンに達しており，この水準だと 28 ドル/トンの輸出関税を課されることになる。

(3) ロシアの穀物輸出規制の経緯

第 9 表は，穀物の純輸出国に転換した 2000 年代初頭から 2021 年に至るまでの間にロシアが発動してきた穀物輸出規制を全て整理したものである。これまでのロシアの穀物輸出規制の中で，それによって小麦の輸出がほぼ停止したのは，2010 年 8 月～2011 年 6 月の穀物輸出禁止措置（第 9 表の③の措置）のとき以外では，同表の②の措置が講じられた時期のうち 2007/08 年度の第 4 四半期（2008 年 4～6 月。当時の輸出関税は 40%（最低 105 ユーロ/トン））と，同表の①の措置が講じられた 2003/04 年度の第 3 及び第 4 四半期（2004 年 1～6 月。輸出関税は 25 ユーロ/トン）であり，それ以外の時期は，規制措置に

よる輸出量の減少はあっても、輸出はそれなりに継続して行われてきた。

第9表 ロシアの穀物輸出規制一覧

| 措置 | 対象品目 | 関税率等 | 適用期間 | 背景 | | | |
|----------------|---------------------------|--|---|--|--|----------------|---------------|
| ①輸出関税 | 小麦, ライ麦 | 25 ユーロ/トン | 2004.1.16~5.1 | 2003年の凶作による供給不足 | | | |
| ②輸出関税 | 小麦 | 10% (最低 22 ユーロ/トン) | 2007.11.12 ~2008.1.28 | 国際的な穀物価格の高騰 | | | |
| | | 40% (最低 105 ユーロ/トン) | 2008.1.29~6.30 | | | | |
| ③輸出禁止 | 小麦, 大麦, ライ麦, トウモロコシ, 小麦粉等 | 対象穀物の輸出禁止 | 2007.11.12 ~2008.6.30 | 2010年の凶作による供給不足 | | | |
| | | | 2010.8.15 ~2011.6.30 | | | | |
| ④輸出関税 | 小麦 | 15%+7.5 ユーロ/トン (最低 35 ユーロ/トン) | 2015.2.1~5.14 | ルーブル安による輸出の進展と国内価格の上昇 | | | |
| ⑤輸出関税 | 小麦 | 課税価格の50%-5,500 ルーブル/トン (最低 50 ルーブル/トン) | 2015.7.1~9.30 | | | | |
| | | 課税価格の50%-6,500 ルーブル/トン (最低 10 ルーブル/トン) | 2015.10.1 ~2016.9.22 | | | | |
| ⑥輸出数量枠 | 小麦, ライ麦, 大麦, トウモロコシ | 対象穀物の総輸出量上限 700 万トン | 2020.4.1~6.30 | 同上に加え新型コロナ禍対策の一環 (輸出と国内安定供給の両立) | | | |
| ⑦輸出禁止 | ライ麦, 米, ソバ, キビ等 | 対象穀物等の輸出禁止 | 2020.4.12~6.30 | EAEUによる新型コロナ禍対策の一環 | | | |
| ⑧輸出関税割当 | 小麦, ライ麦, 大麦, トウモロコシ | 輸出数量枠 | 対象穀物の総輸出量 1,750 万トン | 2021.2.15~6.30 | 新型コロナ禍による景気低迷・所得減少下での国内価格上昇の阻止 (国際価格上昇とルーブル安による輸出の加速が背景との判断) | | |
| | | 枠内輸出関税 | 小麦 | 25 ユーロ/トン | | 2021.2.15~2.28 | |
| | | | | 50 ユーロ/トン | | 2021.3.1~6.1 | |
| | | 枠内輸出関税 | 大麦 | 無税 | | 2021.2.15~3.14 | 2021.3.15~6.1 |
| | | | | 10 ユーロ/トン | | 2021.3.15~6.1 | |
| | | 枠内輸出関税 | トウモロコシ | 無税 | | 2021.2.15~3.14 | 2021.3.15~6.1 |
| | | | | 25 ユーロ/トン | | 2021.3.15~6.1 | |
| 枠内輸出関税 | ライ麦 | 無税 | 2021.3.15~6.1 | | | | |
| 枠外輸出関税 | | 50% (最低 100 ユーロ/トン) | 2021.2.15~6.30 | | | | |
| ⑨可変輸出関税+輸出関税割当 | 小麦, ライ麦, 大麦, トウモロコシ | 可変輸出関税 | 輸出関税額 [トン当たり] = (指標輸出価格 - 基準輸出価格) × 0.7 *基準輸出価格: 小麦 200 ドル/トン, 大麦・トウモロコシ 185 ドル/トン | ・年度前半 (7.1~12.31): 「数量枠なし可変輸出関税」 ・年度後半 (翌年 1.1~6.30): 「輸出数量枠+可変輸出関税」又は「数量枠なし可変輸出関税」 | 国際価格高騰の国内への影響を緩和する恒久的措置であり、輸出関税を財源とする国内助成とセット (穀物ダンパー) | | |
| | | 輸出数量枠 (枠内: 可変輸出関税, 枠外: 50%, 最低 100 ユーロ/トン) | | | | | |

資料: 各規制の根拠となるロシア連邦政令等から筆者作成。

注(1) 網掛けした①及び③は、規制措置の背景にロシア国内の不作による供給不足懸念があったケース。

注(2) 小麦はいずれもメスリン(小麦とライ麦の混合物)を含む。

注(3) ④以降はユーラシア経済連合(EAEU)域外への輸出を対象とする。①~③はロシアの領域外への輸出が対象。

注(4) ⑦は EAEU による措置。それ以外はロシア単独の措置。

注(5) ⑨の内容は、2021年7月以降の恒久的な措置を記述。2021年6月2日~30日の移行的な措置については第4図及び本文の関係箇所を参照のこと。

ロシアの穀物輸出規制は、2010年の穀物輸出禁止措置の経験から、その後は極力制限を抑制する方向で制度が設定・運用されてきた。2021年の穀物輸出規制が過去の輸出規制と比較してどのような水準にあるか、小麦を例として検討してみたい。

2021年2月以降適用される小麦の輸出関税を、2020年10月~12月の平均輸出価格224ドル/トン(ロシア連邦税関庁の通関統計データベースから筆者計算)を前提として従

価税に換算すると、おおむね以下の税率に相当する。

- ・ 2021年2月15日～28日「25ユーロ/トン」：約13%
- ・ 同3月1日～6月1日「50ユーロ/トン」：約27%
- ・ 同6月2日～可変輸出関税：約8%（指標輸出価格を224ドル/トンとして計算）

これに対し、これまでの輸出関税の水準は第9表のとおりであり、そのうち非従価税を上と同様の方法で従価税に換算すると以下のとおりである。

- ・ 第9表④「15%+7.5ユーロ/トン（最低35ユーロ/トン）」：約19%
- ・ 同⑤上段「課税価格の50%−5,500ルーブル/トン（最低50ルーブル/トン）」：約4%
- ・ 同⑤下段「課税価格の50%−6,500ルーブル/トン（最低10ルーブル/トン）」：実態はほとんどの期間で最低税額の10ルーブルが適用されており0%に近い。

これらを比較すると、2021年に適用される最も高い「50ユーロ/トン」は、第9表②(2008年1月29日～6月30日)の「40%（最低105ユーロ/トン）」（当時は小麦輸出がほぼ停止した）に次ぐ水準であり、輸出をかなり強く抑制する意図がうかがえる。

2021年6月2日以降適用される変動輸出関税については、トン当たりの関税負担は、小麦の場合、平均的な輸出価格と200ドル/トンとの差額の70%になるので、負担の程度は輸出価格の動向次第である。例年、農業年度が始まる7月からしばらくは、小麦価格は国内・輸出とも下がるので、関税負担はあっても軽いと思われるが、価格はその後次第に上昇してくるので、そのとき関税負担がどの程度の水準になり、ロシアの穀物生産者や輸出業者がどのような反応を示すか、注視していく必要がある。

(3) 食品輸入禁止措置の延長

ロシアは、ウクライナ危機に際して欧米諸国から講じられた経済制裁への対抗措置として、2014年から食品輸入禁止措置を発動し、その後対象品目や対象国を増やしながらかこの措置を継続してきた。前回2019年6月の延長で、この措置の適用期限は2020年12月31日までとされていたが、2020年12月に措置が更に1年間延長され、2021年12月31日まで適用することが決定された。前回の延長に引き続き対象国や対象品目に変更はない実施的な単純延長である⁽³¹⁾。対象国は、米国、EU加盟国、カナダ、豪州、ノルウェー、ウクライナ、アルバニア、モンテネグロ、アイスランド、リヒテンシュタイン及び英国であり、対象品目は、食肉（牛、豚、家禽）、水産物、牛乳・乳製品、野菜、果実、塩その他である。

5. おわりに

ロシアは、2018年5月大統領令でプーチン大統領が示した方針の下で農産物の輸出拡大に取り組み始めたが、2020年から2021年にかけては、コロナ禍と経済の低迷という状況下で、食品価格の上昇抑制を目的として、穀物や油糧種子に対する輸出制限の強化に転じた。これまでもロシアの農政あるいは内政の根底には、食料安全保障の確保、より具体

的にはパン等の基礎的な食品の価格・数量両面での安定供給の確保という命題があり、国民生活が向上する中で後景に退いていたが、危機的な状況下でこれが再び前面に出てきた形である。これには、景気低迷下にあつて基礎的食品の価格高騰が国民の不満を増幅する事態は避けたいというプーチン大統領の内政的な配慮が強く働いたものと考えられる。しかしながら、内政重視の対応によって穀物等の輸出規制を過度に強化すれば、これまでに築いてきた「穀物輸出大国」としての信頼を損ない、更なる発展の途を狭める結果を自ら招くことになる。そのあたりのバランスを十分考慮した上で輸出規制が運用されていくのか、過度の内政重視から規制強化に傾斜していく事態にならないか、今後の動向を注視していく必要がある。

- 注(1) 第2節の作成に当たっては、金野(2020a)及び(2020b)並びに田畑(2020)を参照した。
- (2) 「農業の成長率」は、総付加価値額の対前年増加率である。正確には他の産業を含む産業区分の数値であり、2019年度のカントリーレポートから「耕種農業及び畜産業、狩猟業並びにこれら部門の関連サービス業」を用いている。
- (3) 当該農水産物輸入禁止措置は、2020年12月にさらに1年間の延長が決定され、2021年12月31日まで適用されることとなっている(第4節(3)参照)。
- (4) ロシアの統計値には、2014年以降はロシアが併合したクリミア(連邦構成主体としてはクリミア共和国及びセヴァストポリ市)の値が含まれている。本稿でロシア連邦全体の数値を示す際には、特に示す場合を除き、2013年以前はクリミアの値を含まず、2014年以降はクリミアの値を含む数値を掲載している。
- (5) 2020年のロシア連邦の小麦の播種面積は、冬小麦1,692万ha、春小麦1,253万haで(いずれもEMISSによる)、冬小麦は対前年6.8%増、春小麦は同2.2%増だった。
- (6) 2020年の穀物の作柄については、スイソエヴァ(2020a)及び同(2020b)並びにガネンコ(2020c)による。
- (7) 2020年のロシア連邦のトウモロコシの播種面積は286万haで(EMISS)、対前年10.1%増だった。
- (8) 2020年の油糧作物の作柄については、スイソエヴァ(2020b)及びガネンコ(2020b)による。
- (9) 2020年のロシア連邦のテンサイの播種面積は927万haで(EMISS)、対前年19.1%減だった。
- (10) 2020年のテンサイの作柄や砂糖をめぐる状況については、スイソエヴァ(2020b)及びガネンコ(2020a)による。なお、砂糖の消費者価格は、2021年2月時点において、2020年12月比では97.6%とやや低下しているが、2020年2月(前年同月)比では164.0%と依然高水準である(ロシア連邦統計庁ウェブサイト)。
- (11) ユーラシア経済連合(EAEU)は、2015年1月に発足した地域経済統合であり、現在の加盟国はロシア、アルメニア、ベラルーシ、カザフスタン及びキルギスタンの5か国である。共通輸入関税率を備えた関税同盟であり、労働力移動の自由化という共同市場の要素も有している。一方、輸出関税は統一されておらず、輸入関税にも一部不統一が残っており、関税同盟として不完全な面が残ることも指摘されている(金野, 2019)。
- (12) いずれも2020年3月31日付けで決定された措置であり、導入の経緯や制度の内容については昨年度のカントリーレポートで報告した。
- (13) 2020年4月から発動されたロシアの穀物輸出クォータの対象4種穀物の、対象期間(4~6月)におけるユーラシア経済連合域外への輸出実績は、直近3年度(2017年の史上最高の豊作を受けて穀物輸出量が急増した2017/18年度を除く2015/16、2016/17及び2018/19年度)の平均で596万トンである。
- (14) 輸出実績がクォータの700万トンを超えている理由としては、クォータ対象外の人道援助に係る輸出などが含まれているためと推測される。輸出実績の数値は、ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」から2021年2月15日にダウンロードしたデータから筆者計算。
- (15) 大豆については、まず2020年5月4日からカザフスタン産大豆について2万トンを限度として同国政府の担当機関の承認の下で域外輸出を許容し(2020年4月21日付けユーラシア経済委員会評議会決定第57号(Решение Коллегии ЕЭК № 57)), さらに6月13日からユーラシア経済連合加盟各国について政府の担当機関の承認の下で大豆の域外輸出を許容した(2020年6月2日付けユーラシア経済委員会評議会決定第71号(Решение Коллегии ЕЭК № 71))。
- (16) ヒマワリ種子の域外輸出許可制の根拠は、2020年6月16日付けユーラシア経済委員会評議会決定第78号(Решение Коллегии ЕЭК № 78)。この許可制についてスイソエヴァは「人為的な禁止措置であった。なぜなら会社はどのように輸出許可を得るのかわからず、当時輸出は実質的に停止したのだから」とのロシアの農業調査会社プロゼルノーのペトリチェンコ代表の発言を紹介している(スイソエヴァ, 2020b: 28)。
- (17) ロシアの小麦輸出の中心となる4級普通小麦の生産者(農業組織)販売価格は、2020年7月の11,991ルーブル/トンから同年12月の15,441ルーブル/トンまで28.8%上昇した(数値はEMISS)。
- (18) 2020年12月9日、プーチン大統領とロシア政府関係とのビデオ会議が行われた。第1部の主要議題は「各分野における高度技術の発展」であったが、その中でパトルシェフ農相が2020年の農業と農政の成果について報告を行っており、「農業生産は伸びており、農業政策は成果を上げている」旨を強調したのに対し、プーチン大統領は、「ソ連時代にはどんな風か言っていたか、君は若いから覚えてないだろう。私は覚えてるよ。『ソ連には何でもある。皆に行き渡らないだけだ』って言ってたんだ。でも実際には不足だったから行き渡らなかったんだ。今物が行き渡らないのは、特定の品物について、市場の価格が人々には手が出ないものになっているからだ。この問題は次の会

議で議論しよう。とても重要な問題だ。」と述べた（ロシア連邦大統領府ウェブサイト、出来事 2020 年 12 月 9 日（1））。

引き続いて行われた第 2 部「経済問題に関する会議」では、冒頭発言でこの問題に対するプーチン大統領の論理が明快に示されているので、長くなるが以下に抄訳を掲げる（ロシア連邦大統領府ウェブサイト、出来事 2020 年 12 月 9 日（2））。パラグラフ分けは原文に対応）。

- ・ とても重要で、ロシアの全ての家族にとって敏感な問題を議論しなければならない。それは雇用、所得そして価格、とりわけ基礎的品目の価格だ。
- ・ 状況はどうなっているか？まず所得。残念ながら今年は下がった。労働市場は供給過剰で、失業率は 4.7-4.8% だったのが 6.8% に上昇した。今は少し下がって 6.3% だ。米国や欧州よりはましだが。
- ・ 所得と失業はまだ理解できる。国民も、これは客観的な困難によるもので、我が国だけの問題ではないとわかってくれるだろう。
- ・ 基礎的食品の価格はどうか。これはパンデミックでは説明できない。砂糖はどうか。農業大臣は「国内生産は国内消費をまかなうに十分です」と報告した。ではどうして価格が 71.5% も上がるのか？幸い報告によれば少しは安定してきたようだが。ヒマワリ油はどうか？23.8% 上昇し、引き続き上昇中。小麦粉は 12.9%、パスタは 10.5%、パンは 6.3% 上昇した。これはなぜだ？
- ・ もちろん説明はある。国際市場の価格動向と国内価格のそれへの追随、そして輸出可能性の追求だ。
- ・ 最近のインフレーションは中央銀行の目標を超えている。インフレ率は 4.4% で目標は 4% だ。
- ・ もちろん客観的な要因も影響している。病気の流行下で企業活動が困難になっていること、そしてルーブル安だ。我々は 10 月の会議でこの問題を議論し、政府がこの問題を注意深く分析する、ということで合意した。
- ・ 今日は本件に関する提案を詳細に検討しよう。強調したいのは、適用される措置は全て周到に議論されなければならないことだ。措置がビジネスの現在の活動と将来の発展計画に及ぼす影響を考慮しなければならない。
- ・ そして最も重要なのは国民の利益と福祉だ。だからこそ、決定はバランスの取れたものでなければならず、適時でなければならない。

(19) ロシア連邦政府は、プーチン大統領とのビデオ会議の翌日（2020 年 12 月 10 日）夕方に「食品の価格動向に関する会議」を開催し、ミシュスティン首相から経済発展省、財務省、農業省及び反独占庁関係閣僚に対策案の提出を指示した（ロシア連邦政府（首相府）ウェブサイト、ニュース 2020 年 12 月 10 日）。これを受けて 12 月 14 日には「副首相との実務会議」（首相、副首相、関係大臣出席）が開催され、まずレシエトニコフ経済発展大臣から対策の全体像が報告された。その概要は以下のとおり（ロシア連邦政府（首相府）ウェブサイト、ニュース 2020 年 12 月 14 日）。

【レシエトニコフ経済発展大臣発言概要】

大統領の指示と 10 日の会議（食品の価格動向に関する会議）の結果を踏まえ、社会的重要な品目（砂糖、ヒマワリ油、パン製品等）の消費者価格抑制のため以下の一連の措置を取る。

① 当面の価格安定措置

- ・ 12 月 20 日までに砂糖及び植物油の製造業界団体並びに小売チェーンと協定を結び、これら品目の小売チェーンへの卸売価格の引下げと小売チェーンにおける小売価格の制限を行う。協定は 2021 年第 1 四半期末まで有効とする。協定締結の責任は農業省及び経済発展省が負う。（筆者注：この協定は 12 月 16 日に締結・公表されており（連邦農業省記者発表（2020.12.16））、連邦農業省、連邦産業貿易省、大手流通チェーン及び製造業界団体を当事者として、小売基準価格を砂糖 1kg 当たり 46 ルーブル、ヒマワリ油 1 リットル当たり 110 ルーブルとすること等が合意されている。）

② 来年の追加的な価格安定措置

（砂糖関係）

- ・ 製糖業者に対し原料のテンサイ購入資金に係る低利融資（金利 1～5%）を供与。
- ・ 来年のテンサイ播種面積の拡大

（ヒマワリ油関係）

- ・ ヒマワリ種子の国内市場安定対策として、禁止的な輸出関税（税率 30%、ただし最低 165 ユーロ/トン）を導入。適用期間は 2021 年 1 月 9 日～6 月 31 日。政令は 12 月 9 日に署名済み。
- ・ ヒマワリ油の輸出関税導入を検討中。（筆者注：本稿を執筆した 2021 年 3 月末時点では未決定。）

（パン、小麦粉関係）

- ・ 穀物の輸出クォータ（1,750 万トン）及び関税（クォータ内 25 ユーロ/トン、クォータ外 50%、ただし最低 100 ユーロ/トン）。適用期間 2021 年 2 月 15 日～6 月 30 日。政令案提出済み。（筆者注：政令は、穀物輸出クォータが 2020 年 12 月 14 日付けロシア連邦政令第 2097 号。輸出関税が同第 2096 号。いずれも公布は 12 月 15 日。）
- ・ 製粉、製パン業者の支援のため、製粉業者に対しては食用小麦の購入費用、製パン業者に対しては粉の購入費用の一部を助成する。農業省が政令案提出済み。（筆者注：政令は 2020 年 12 月 14 日付けロシア連邦政令第 2095 号。）

（その他）

- ・ 物価統制措置発動基準の緩和（2008 年政令 530 号では、社会的重要な品目について緊急時に 90 日間公定価格を設定できる基準として価格変動幅が「30%」と定められているが、これを政府の判断で「季節変動を除き月間 10%」に変更できるよう所要の法改正を提案。
- ・ 国際価格の変動に対して国内消費者価格の安定を図るため、変動抑制的な農業支持システムを農業省とともに検討し、年末までに提案。

(20) ヒマワリ及びナタネの輸出関税引上げは、2020 年 12 月 10 日付けロシア連邦政令第 2065 号（同日公布）に基づく措置。ヒマワリ油の輸出関税賦課は、本稿を執筆した 2021 年 3 月末時点では未決定。

(21) 大豆の輸出関税賦課は、2020 年 12 月 31 日付けロシア連邦政令第 2397 号（2021 年 1 月 4 日公布）に基づく

- 措置。パルーヒン（2020）は、油脂製造業者団体のロシア油脂連合（Масложировой союз России）が、現状では大豆の国内価格よりも外国市場の価格が高いため輸出が進み原料確保に懸念があるとして、関係省庁に大豆に対する輸出関税（税率20%）の導入を要請したこと、大豆への輸出関税賦課は中国への大豆輸出が多いロシア極東地域にとって不利益となるおそれがあることを述べている。
- (22) ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」（2021年1月31日アクセス）によれば、2020年（1月～12月）における、輸出関税の対象となる「種子用以外的大豆」（HS1201 90 000 0）の平均輸出単価は346ドル/トンである（輸出額361百万ドル、輸出量104万トン）。
- (23) 再導入された穀物輸出規制措置については、2020年12月の決定後、2021年2月までの間に二度も見直しが行われたが、その背景について、レシエトニコフ経済発展大臣が2021年2月4日に行ったプーチン大統領への報告（ロシア連邦大統領府ウェブサイト、出来事2021年2月4日）後の記者ブリーフィングで説明している（ロシア連邦政府（首相府）ウェブサイト、ニュース2021年2月4日）。その抜粋は以下のとおり。なお、こうした貿易関連とはいえ農業分野の措置が、パトルシェフ農業大臣や農業担当のアブラムチェンコ副首相が表に出てくることなく、レシエトニコフ経済発展大臣主導の下で決定されていることは興味深い。
- ・ 今日我々はどうのように状況を見ているか？第1に、我々は昨年末に十分に大規模で複合的な措置を取った。すなわち、ヒマワリ種子と小麦の輸出関税の導入、製粉・製パン企業に対する補助金配分の決定である。
 - ・ しかし、昨年末から今年初めの状況は、既に取った措置が十分でないことを示した。なぜなら、世界市場で食品価格の活発な上昇が始まったからだ。ロシアは世界最大級の穀物輸出国なので、世界価格の上昇が国内の穀物価格の上昇にもなる。このため、政府は大統領の命を受けて追加的な方策を検討した。
 - ・ それが「穀物ダンパー」という仕組みであり、本日大統領に報告して御了解をいただいた。それは大きく二つの方向からなる。第1は、長期的な基礎の上に穀物関税を構築することである。想起しよう。昨年末我々は2月15日から25ユーロ/トンの輸出関税（訳注：小麦の輸出関税）を設定し、2月15日から6月30日まで1,750万トンの穀物輸出クオータを適用することとした（訳注：本稿の「第1の措置」）。年初にはこの措置が十分でないことが判明したために、我々は3月1日から輸出関税（訳注：小麦の輸出関税）を50ユーロに引き上げることとした（訳注：本稿の「第2の措置」）。そうすると、輸出業者や穀物生産者からは6月30日以降はどうなるのか、という疑問が出た。そこで今提案されている変動輸出関税である（訳注：本稿の「第3の措置」）。
 - ・ 穀物ダンパーの第2の部分は、お金を農業に戻すということである。大統領からの指示は、輸出関税として徴収した金は、耕種農業生産者に対する補助金の形で農業に戻すということだった。
- (24) 第1の措置のうち、穀物の輸出数量枠は2020年12月14日付けロシア連邦政令第2097号、穀物に対する輸出関税の賦課は同第2096号による措置。
- (25) 第2の措置としての穀物輸出関税の見直しは、2021年1月23日付けロシア連邦政令第33号に基づく措置。
- (26) ユーラシア経済連合加盟国への輸出を含む総輸出量。ロシア連邦税関庁通関統計データベースから2021年2月15日にダウンロードした数値より筆者計算。
- (27) 第3の措置は、2021年2月6日付けロシア連邦政令第117号に基づく措置。
- (28) 穀物ダンパーの対象穀物のうちライ麦については、輸出関税が賦課されるのは、輸出数量枠が設定された場合の枠外輸出関税（50%、ただし最低100ユーロ/トン）のみであり、可変輸出関税は常にゼロである。なお、種子用の輸出の場合は、いずれの穀物も穀物ダンパーの対象とならない。
- (29) 可変輸出関税のトン当たり税額の連邦農業省による公表・適用は2021年6月2日からだが、指標輸出価格は2021年4月1日から算出・公表を行うものとされている。なお「指標輸出価格」は、原語は「指標価格」（индикативная цена）であるが、内容の理解を助ける観点から筆者が和訳に当たって「輸出」を補った。
- (30) 2022年1月1日～6月30日については、本稿執筆時（2021年3月末）の2021年2月6日付けロシア連邦政令第117号によれば、輸出数量枠が設定された場合には、輸出関税は2021年6月2日～30日と同様（枠内は可変輸出関税、枠外輸出関税は50%（最低100ユーロ/トン））となり、輸出数量枠が設定されない場合は、2021年7月1日～12月31日と同様に可変輸出関税のみが適用されるものと考えられる。
- (31) 今回の食品輸入禁止措置延長は、2020年12月9日付けロシア連邦政令第2054号による。今次延長においては、これまで「EU加盟国」に含まれる形で対象になっていた英国がEU離脱に伴い対象国として個別に規定されるようになったこと以外は特段内容の変更はなかった。

[引用文献]

【日本語文献】

- 金野雄五（2019）「ユーラシア経済連合—結合の現段階と一帯一路との関係—」『比較経済研究』第56巻第2号：23-35、比較経済体制学会。
- 金野雄五（2020a）「COVID-19とロシア経済—感染拡大に原油安が追い打ち」『みずほインサイト 欧州』2020年7月7日号、みずほ総合研究所。
- 金野雄五（2020b）「回復が遅れるロシア経済—国産ワクチンを開発も、普及には遅れ」『みずほインサイト 欧州』2020年12月16日号、みずほ総合研究所。

田畑伸一郎 (2020) 「想定通りの低成長となったロシア経済」『ロシア NIS 調査月報』2020 年 5 月号 : 2-25, ロシア NIS 貿易会.

【英語文献】

Johns Hopkins University, Coronavirus Resource Center. [<https://coronavirus.jhu.edu/>] (2021 年 3 月 26 日参照)

USEIA (US Energy Information Agency), Cushing, OK Crude Oil Future Contract 1 (Dollars per Barrel) [<http://tonto.eia.gov/dnav/pet/hist/LeafHandler.ashx?n=PET&s=RCLC1&f=D>] (2021 年 1 月 2 日参照)

USDA, PSD Online, Custom Query. [<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>] (2021 年 3 月 24 日参照)

【ロシア語文献】本文中では「日本語訳の著者名 (刊行年)」又は項目末尾に示す【】内の略称で引用。

Бурлакова Е. (2020), Квота на экспорт зерна в новом сезоне может не применяться - Для этого стране надо собрать урожай в 125 млн тон, *Ведомости*, 29.06.2020. (ブルラコヴァ (2020) 「穀物の輸出クオータは新年度には適用されないかもしれない—そのためには我が国は 125 百万トン以上を収穫しなければならない」『ヴェドモスチ』(インターネット版) 2020 年 6 月 29 日.)

[<https://www.vedomosti.ru/business/articles/2020/06/30/833661-kvota-na-eksport-zerna>] (2021 年 2 月 23 日参照)

Ганенко И. (2020a), Свекловодам выдуло урожай, *Агроинвестор*, 2020.8, С. 44-51. (ガネンコ (2020a) 「テンサイ生産者は収穫を吹き飛ばされた」『アグロインヴェストル』2020 年 8 月号 : 44-51.)

Ганенко И. (2020b), На рынке подсолнечника - неопределенность, *Агроинвестор*, 2020.9, С. 36-42. (ガネンコ (2020b) 「ヒマワリ市場には不確実性」『アグロインヴェストル』2020 年 9 月号 : 36-42.)

Ганенко И. (2020c), Опять почти рекорд - Российский урожай зерна превысит 130 млн тон, *Агроинвестор*, 2020.11, С. 14-21. (ガネンコ (2020c) 「再びほぼ記録的に—ロシアの穀物収穫量は 130 百万トンを上回る見込み」『アグロインヴェストル』2020 年 11 月号 : 14-21.)

ЕМИСС: Единая межведомственная информационно-статистическая система. (省庁間情報統計システム) 【EMISS】 [<http://www.fedstat.ru/indicators/start.do>] (2021 年 2 月 23 日参照)

Литвинова Е. (2020), Экспортеры зерна начали отказываться от выбранной квоты, *Агроинвестор*, 08.05.2020. (リトヴィノヴァ (2020) 「輸出業者は確保したクオータを断り始めた」『アグロインヴェストル』ウェブサイト 2020 年 5 月 8 日.) [<https://www.agroinvestor.ru/markets/news/33672-eksportery-zerna-nachali-otkazyvatsya-ot-vybrannoy-kvoty/>] (2021 年 2 月 23 日参照)

Минсельхоз (Министерство сельского хозяйства РФ), Официальный сайт. [<http://mcx.ru/>] 【ロシア連邦農業省ウェブサイト】

Пресс-служба (16 декабря 2020), Подписаны соглашения о стабилизации цен на сахар и подсолнечное масло. (連邦農業省記者発表 (2020.12.16) 「砂糖及びヒマワリ油の価格安定に関

する協定に署名」 [<https://mcx.gov.ru/press-service/news/podpisany-soglasheniya-o-stabilizatsii-tsen-na-sakhar-i-podsolnechnoe-maslo-61305/>] (2021年2月23日参照)

Полухин А. (2020), Сое закрывают границу - Переработчики призывают установить пошлину на экспорт, *Коммерсантъ*, 02. 12. 2020. (バルーヒン (2020) 「大豆には国境が閉ざされるー加工業者は輸出関税設定を要請」『*コメルサント*』(インターネット版) 2020年12月2日.)

[<https://www.kommersant.ru/doc/4595418>] (2021年2月23日参照)

Правительство России, Официальный сайт. 【ロシア連邦政府(首相府)ウェブサイト】(2021年2月23日参照)

Новости, 10 декабря 2020 года, «Совещание о динамике цен на продовольственные товары» (ニュース 2020年12月10日「食品の価格動向に関する会議」)

[<http://government.ru/news/41085/>]

Новости, 14 декабря 2020 года, «Оперативное совещание с вице-премьерами» (ニュース 2020年12月14日「副首相との実務会議」) [<http://government.ru/news/41107/>]

Новости, 4 февраля 2021 года, «Брифинг Министра экономического развития Максима Решетникова» (ニュース 2021年2月4日「マクシム・レシエトニコフ経済発展大臣記者ブリーフィング」) [<http://government.ru/news/41461/>]

Президент России, Официальный сайт. 【ロシア連邦大統領府ウェブサイト】(2021年2月23日参照)

События, 9 декабря 2020 года, «Совещание с членами Правительства» (出来事 2020年12月9日 (1)「政府メンバーとの会合」) [<http://www.kremlin.ru/events/president/news/64623>]

События, 9 декабря 2020 года, «Совещание по экономическим вопросам» (出来事 2020年12月9日 (2)「経済問題に関する会合」) [<http://www.kremlin.ru/events/president/news/64624>]

События, 4 февраля 2021 года, «Рабочая встреча с Министром экономического развития Максимом Решетниковым» (出来事 2021年2月4日「マクシム・レシエトニコフ経済発展大臣との実務的会合」) [<http://www.kremlin.ru/events/president/news/64965>]

Росстат (Федеральная служба государственной статистики), Официальный интернет-портал Федеральной службы государственной статистики. [<http://www.gks.ru/>] 【ロシア連邦統計庁ウェブサイト】(2021年2月23日参照)

Росстат (2021), Производство продукции животноводства и численность скота в хозяйствах всех категорий за январь-декабрь 2019 года. (ロシア連邦統計庁 (2021) 「全類型の農業生産主体における2020年1月-12月の畜産物生産と家畜頭数」.)

Сысоева И. (2020a), Маржа в початках, *Агроинвестор*, 2020.11, С. 46-52.

(スイソエヴァ (2020a) 「穂の中に利潤が」『*アグロインヴェストル*』2020年11月号: 46-52.)

Сысоева И. (2020b), Цены выросли, а доход под вопросом, *Агроинвестор*, 2020.12, С. 26-32.

(スイソエヴァ (2020b) 「価格は上がったが収入は？」『*アグロインヴェストル*』2020年12月号: 26-32.)

Указ Президента Российской Федерации от 07.05.2018 № 204 “О национальных целях и

стратегических задачах развития Российской Федерации на период до 2024 года“ (2018年5月7日付けロシア連邦大統領令「2024年までのロシア連邦の国家目標と戦略的課題について」.)【2018年5月大統領令】

Центральный Банк Российской Федерации, Официальный сайт. [<https://www.cbr.ru/>] 【ロシア連邦中央銀行ウェブサイト】 (2021年1月2日参照)

Федеральная таможенная служба РФ, Официальный сайт. [<https://customs.gov.ru/>] 【ロシア連邦税関庁ウェブサイト】 (2021年2月15日参照)

Федеральная таможенная служба РФ, База данных таможенной статистики внешней торговли. [<http://stat.customs.ru/apex/f?p=201:2:672649820124882::NO>] 【ロシア連邦税関庁「通関統計データベース」】 (2021年2月15日参照)

Федеральная таможенная служба РФ, Таможенная статистика внешней торговли Российской Федерации. 【ロシア連邦税関庁「通関統計」】

Шокурова Е. (2021), Эксперты: в России вырастут цены на яйца и курицу, *Агроинвестор*, 17.02.2021. (ショクロヴァ (2021) 「専門家：ロシアでは鶏卵と鶏肉の価格が上がる」『アグロインヴェストル』ウェブサイト2021年2月17日.) [<https://www.agroinvestor.ru/analytics/news/35304-eksperty-v-rossii-vyrastut-tseny-na-yaytsa-i-kuritsu/>] (2021年2月23日参照)